ここで見られる海洋生物 1 : 東アジアスナメリ (*Neophocaena asiaeorientalis* sunameri)

鳴門における地域の 2 つの伝説は、東アジアスナメリを目撃したことで生まれものであるようです。1 つは瀬戸内海の海面に仏教僧の坊主頭が浮き沈みするというもの、もう 1 つは「人魚」が訪れたという記録です。スナメリの体長は通常 1.2 から 1.9m、体重は 30 から 45kg であり、体色の範囲は灰がかった白からクリーム色となっています。ほとんどの水生哺乳類に見られる背びれの代わりに、スナメリは胸部から尾の付け根まで伸びるキールを持っています。スナメリの頭は丸く、鼻がありません。このことが「海坊主」の伝説を生み出したのでしょう。歯はトランプのスペードのような形をしており、これによりスナメリは甲殻類と小魚のどちらも餌にすることができます。

スナメリは以前まで単一種であると考えられてきました。しかし最近になって、海洋生物学者は個別の二種を認識しています。1 つ目は日本でスナメリとして知られる *Neophocaena asiaeorientalis* であり、生息域は台湾北側の海、朝鮮半島全域、そして日本まで至ります。2 つ目の *Neophocaena phocaenoides* は、ペルシャ湾から台湾までの水域で発見されています。両者ともに危急種に分類されており、瀬戸内海におけるスナメリの生息数は 7,600 から 9,200 と推定されています。